

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	A-153	14-048 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Blood alcohol content, injury severity, and adult respiratory distress syndrome. 血中アルコール成分、傷害重症度と成人呼吸促進症候群		
執筆者		
Afshar M, Smith GS, Terrin ML, Barrett M, Lissauer ME, Mansoor S, Jeudy J, Netzer G.		
掲載誌		
J Trauma Acute Care Surg. 2014 Jun;76(6):1447-55. doi: 10.1097/TA.000000000000238.		
キーワード		PMID
ARDS(成人呼吸促進症候群)、飲酒、エタノール、トラウマ重症度指数		24854314
要 旨		
<p>目的： BAC(blood alcohol content:血中アルコール成分)の値の上昇は傷害時の危険因子であり、外傷患者の50%でBACの上昇が確認されているが、BACとARDS(adult respiratory distress syndrome:成人呼吸促進症候群)との関連については明確に立証されていない。そこでBACが0 mg/dL以上におけるISS(Injury Severity Score)、GCS(Glasgow Coma Scale)スコア、ARDSの進行との関連について検証した。</p> <p>方法： 2003年7月から2011年10月にかけてMaryland大学ショック・トラウマセンターに照会された26,305名の外傷患者を対象とした後ろ向き観察コホート研究を行った。照会によるBAC受診とISS、GCSスコア、受診後5日以内のARDS進行との関連についてロジスティック回帰分析を用いて検証した。</p> <p>結果： ARDS発症率は5.5%で1,447症例認められた。BACが0 mg/dL以上においてARDS進行との関連が変数調整後認められた(オッズ比1.50、95%信頼区間1.33-1.71、$p < 0.001$)。ISS高値(≥ 16)ではARDS進行と強い関連が認められ(オッズ比17.99、95%信頼区間15.51-20.86)、GCS低値(≤ 8)でも強い関連が認められた(オッズ比8.77、95%信頼区間7.64-10.07、$p < 0.001$)。GCS低値かつISS高値の患者ではARDS発症者が最も多く(33.6%)、ARDS非発症者においても死亡率が最も高かった(24.7%)。</p> <p>結論： BACの上昇はARDSの進行と関連が認められた。ISSとGCSスコアはARDSに対する強い予後因子であり、高リスク患者の抽出に有用であることが示唆された。BAC上昇は傷害重症度もしくはGCS低値に起因する鬱の影響を通じてARDS発症頻度を増大すると考えられる。</p>		